

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 26	福山市立坪生小学校
最終更新日		2025 年（令和7年）10月10日

I 福山市

ミッション ビジョン	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
---------------	--

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資・勸	○課題発見解決能力 ○チャレンジ精神	○コミュニケーション能力（自己効力感） ○思いやりと感謝の心（地域貢献）
○不登校生徒への丁寧な支援を引き続き継続してもらいたい。 ○地域の多様な人材を職業学習などの機会を活用してほしい。 ○交通安全や地域のボランティア活動など地域との連携を引き続き強化してほしい。	○「学校に行くのが楽しい」「安心して通っている」と感じている児童生徒の割合は992.8%（校区平均）であり、安心・安全で学校に楽しみを感じながら登校している。 ○「目標や方法を選びながら学んでいる」や「考えること、学びが面白い」と感じている児童生徒の割合は87.8%（校区平均）であり、選択・決定したり、対話をしたりしながら自ら学びを進めている。 ○前年度実施した標準学力調査においては、全領域に課題がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる	
		中学校区として統一した取組等	○子ども主体の学びづくり（授業、児童生徒会活動、ボランティア活動など） ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実	

III 自 校

ミッション
児童と授業・行事を作り上げるとともに、確かな学力を身に付けるようにする。

学校教育目標
学び合い 学び続ける

現 状
<児童生徒> ○「授業の中で『やってみたい』と思ったことに挑戦できている」肯定的回答⇒83% ○「学校が楽しい」肯定的回答⇒86% ○「体を動かすことが楽しい」肯定的回答⇒93% ・おおむね目標を達成しているが、各種調査の結果から、思考力、判断力、表現力等に課題が見られる。また、否定的な回答をした児童も一定数いるという現状を受け止め、引き続き児童一人一人に寄り添って指導を行っていく。 <保護者> ○学校に対する安心感 肯定的回答⇒96% ・多様な価値観の中、学校が進める教育を丁寧に説明したり、保護者の意見をもとに修正したりする。 <職員> ○「仕事にやりがいを感じている」⇒100% ・組織体制の見直しや、職員同士の対話を通して、全職員で共通理解を高めていく。

育成する力 資質・能力		課題発見解決能力	コミュニケーション 能力	チャレンジ精神 （自己効力感）	思いやりと感謝の心 （地域貢献）
めざす 子ども像	５・ ６年	解決に向けて、主 体的に選択・判断 する	人の考えや気持ち を受け入れ、自分 の意見や気持ちを 表現する	結果の理由を次に 生かしてやってみ る	人や地域のため になることを考え、 行動する
	３・ ４年	解決への方法を考 え、見通しを立て る	人の気持ちを考 え、自分の意見を 理由をつけて伝え る	得意なことも苦手 なこともやってみ る	人や地域のため になることを考える
	１・ ２年	もんだいにきづ き、かだいをたて る	じぶんのかんがえ やきもちをいう	もくひょうをもっ てやってみる	ひとやちいきにか んしゃのきもちを もつ
研究	教科等	「かく力」を育む授業づくり ～文章を正確に読む力とかく意欲の向上を通して～			
	主題・ 内容等	・文章を正確に読む力を高める指導 ・かく意欲を高めるための工夫			
めざす授業の姿		児童の「かく力」を育む授業			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立坪生小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	児童の「かく力」を育む	★	新規	文章を正確に読む力とかく意欲の向上を図る	①児童の「文章を正確に読む力」や「かく意欲」について交流する時間を設定し、「かく力」を育む授業づくりについての理解を深める。 ②「かく力」に関する児童のつまずきを把握し、課題を克服できるように授業づくりを行う。	①学習過程（授業の流れ）や教材の工夫についての実践を学期に2回以上交流する。 ①各学期の学期末テストにおける「読む」の観点の学級平均得点 80点以上 ②標準学力調査における「書くこと」領域の校内正答率を前年度より向上させる。 ②児童アンケート「自分の考えをかくことは好きですか。」（4段階）肯定的評価 80%以上	①校内研究授業を2回、それに向けた事前の研修を3回、授業公開を4回以上行い、文章を正確に読む力とかく意欲の向上について協議を行った。また、研修後に研究だよりを発行したり、研修での学びを授業に還元できるように振り返りを行った。 ⇒1学期の学期末テストにおける「読む」の観点の校内平均点 80.8点 ②学力テストや学期末テストを分析し、各学級でのつまずきを把握した。「漢字」「書くこと」の理論研修も行った。授業でのさらなる工夫が必要である。 ⇒児童アンケート「自分の意見を書くことは好きだ」肯定的評価児童 76%	3	3	①単元・教材を通して付けたい力を明確にした授業づくり及び日々の実践交流を行う。 ②児童が自らの考えを表出するための手がかりとするために、「書き方の例」を児童に示したり、これまで学習した「書くための技」を共有したりする。					
1	学力の基礎基本の定着	★	新規	教職員同士が意見交流をもち、児童が確かな学力を身に付けることができるようにする。	①帯タイムを設定し、学習する習慣を確保する。基本的な計算問題を帯タイムに取り入れる。 ②児童が確かな学力を身に付けているか取組をもとに対話を重ね、交流する場を設定する。	①検定シートの合格率（国・算）各クラス75%以上 ②放課後の時間を活用し、教材研究や児童についての交流を週に3回以上行う。 ⇒検定シート「書く」問題合格率 各クラス70%以上	①帯タイムでは、曜日ごとに内容を決め、全校で取り組んだ。百マス計算やえんぴつタイム（条件作文）などを実施し、基礎基本の定着を図った。 ②学習内容の確認や教材研究、成果物・板書などの交流を、週に3回以上行った。	4	3	①児童が安心して検定シートに臨めるよう、実施前に練習問題に取り組み、問題の解き方や出題範囲の確認を行う。 検定シート国語・算数（10月3回実施） ②授業づくりポートフォリオをもとに、授業づくりについて交流する場を設定する。					

1	自己を大切に し、他者を尊 重する心を育 てる指導の充 実	新規	互いを認め、相 手を大切にできる 児童を増やす。	①ことばを大切にする指導 を日常的に行う。 ②児童同士の相互評価の場 を、柔軟に設定する。	①児童アンケート 「相手を大切にしたことば 遣いをしている。」 (4段階) 肯定的評価 85%以上 ②教職員アンケート 「児童同士の相互評価の 場を、意図的に設定して いる。」(4段階) 肯定的評価90%以上	①学校全体での指導、各クラ スでの指導を継続して行っ ているが、実際には、まだ 言葉遣いに課題がある児童 が多い。 ⇒児童アンケート 「相手を大切にした言葉遣い をしている。」 肯定的評価児童89% ②たてわり掃除、児童会行 事、異学年交流などを通し て、互いに認め合う場を設 定している。 ⇒教職員アンケート 「児童同士の相互評価の場 を、意図的に設定してい る」 肯定的評価教職員100%	3	3	①学校全体・各クラ ス・個人へのていね いな声かけを継続し て行う。また児童が 言葉を大切にできる よう、児童会から放 送を行ったり、目が 届きやすい場所に掲 示を行ったりする。 ②日々の学習、スタン プラリー、音楽発表 会などを通して、互 いを認め合う場を設 定していく。					
1	運動に親しむ 資質や能力の 育成	新規	仲間と楽しみな がら体力の向上を 図るとともに、運 動を親しむことの できる児童を増や す。	①体育的活動（行事）を通 して、仲間と体を動かす ことの楽しさを実感で きるようにする。 ②委員会などと連携し、誰 もが仲間と楽しみなが ら運動に触れる機会を 設定し、その活動を保 護者へも啓発してい く。	①児童アンケート 「仲間と体を動かすこと が楽しい」(4段階) 肯定的評価 90%以上 ②保護者アンケート【学校 での外遊びや習い事 を含め、お子様は自ら 体力づくりに取り組ん でいる】 肯定的評価85%以上	①体育的活動を充実させ るための教員研修を行 い、授業などに取り入 れた。 ⇒児童アンケート 「仲間と体を動かすこと が楽しい」 肯定的評価児童 88% ②体育委員会が室内でも できる運動遊びを動画 で紹介し、全校で取り 組んだ。また、新体カ テストの結果や取り組 んでほしい運動を紹介 するたよりを作成し、 保護者への啓発に努 めた。 ⇒保護者アンケート 「学校での外遊びや習 い事を含め、お子様は 自ら体力づくりに取り組 んでいる」 肯定的評価保護者83%	3	3	①体育の授業で、運動 することで得られる心 地よさを味わう場面を 意識的に設ける。(柔軟 等) また、運動能力だ けでなく、取り組む姿 勢に着目した振り返り の充実を図る。 ②全校や学級で取り組 む運動遊び行事を企画 する。(長縄大会等) 保護者に向けたよりを 通じ、学校での取組や 課題を周知する。					

1	地域・保護者から信頼される学校づくりの推進	新規	児童と保護者が安心・安全な学校生活を実感できるようにする。	①児童が毎日楽しく登校したり安心して過ごしたりできるような学級経営を行う。 ②保護者や地域の多様なニーズを把握し、様々な方法でタイムリーに情報を発信する。	①児童アンケート 「学校に行くのが楽しい」(4段階) 肯定的評価90%以上 ②保護者アンケート 「お子様は、楽しく学校へ通っている」(4段階) 肯定的評価97%以上	①学級活動や授業の中で、認め合う場や活躍する場を設定し、取り組んだ。 ⇒児童アンケート 「学校に行くのが楽しい」 肯定的評価児童89% ②月に1回以上の学校だよりや学年通信を発行することによって、児童の様子を保護者に伝えることができた。 ⇒保護者アンケート 「お子様は、楽しく学校へ通っている」 肯定的評価保護者92%	3	3	①学級経営では、人間関係づくりや学習活動の工夫を行い、継続して認め合う場や活躍の場の設定、学級遊びなどを実践していく。 ②欠席が続いたり、保護者からの相談があったりした時には、保護者連携を早くていねいに行う。また、必ず複数で対応する。					
---	-----------------------	----	-------------------------------	--	---	--	---	---	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。